

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会  
FM同期放送作業班（第1回） 議事概要（案）

1 日時

令和元年7月12日（金） 15:00～16:45

2 場所

金融庁 9階905B会議室

3 議題

- (1) 調査検討の進め方について
- (2) FM同期放送システムについて
- (3) FM同期放送の技術的条件の基本的考え方について

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】 都竹主任、岩下構成員、岩田構成員、乙坂構成員、川島構成員、小泉構成員、齋藤構成員、塩山構成員、寺嶋構成員、藤井構成員、堀越構成員

【オブザーバー】 日本放送協会 濱中氏

【事務局】 情報流通行政局 放送技術課

5 配付資料

資料FM同作1-1 「放送システムに関する技術的条件」のうち「FM同期放送の技術的条件」の検討の進め方

資料FM同作1-2 FM同期放送への取り組み

資料FM同作1-3 FM同期放送の導入に関する技術的条件の調査検討 技術試験事務の実施概要

資料FM同作1-4 FM同期放送の調査検討における基本的な考え方について

6 議事概要

(1) 調査検討の進め方について

事務局より、資料FM同作1-1に基づき、検討の進め方の説明を行った。

(2) FM同期放送システムについて

岩下構成員より資料FM同作1-2に基づき、FM同期放送への取り組みについて説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- 音声伝送系の課題としてスタジオ送出時の特性は保存されないとあるが、これはスタジオ送出時と受信点で時間のずれが生じるということなのか。（堀越構成員）
- 受信点における時間を合わせるために、各送信点において相対的に時間を調整する必要があるが、通常の伝送装置では再生される信号の周波数が受信側装置のクロックに依存してしまうため、これがスタジオ送出時の特性は保存されないとということである。（岩下構成員）
- 中心周波数の偏差は実力値で0.2Hz以下の精度とのことだが、移動中はドップラー効果によって周波数差に変化が生じると思う。どのくらいの移動速度まで耐えられるのか。（齋藤構成員）

- 実運用上は全くと言っていいほど影響を感じていない。(岩下構成員)

続いて、岩田構成員より資料FM同作1-3に基づき、平成29年度及び30年度に実施した「FM同期放送の導入に係る技術的条件に関する調査検討」の結果について説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- 同期放送の定義について、従属同期方式、独立同期方式、完全同期方式、下位局間の同期放送の4種類すべてを同期放送とするということか。(川島構成員)
- その考えである。(岩田構成員)
- 主観評価試験について、単局放送と同期放送を比較したということか。(藤井構成員)
- そのとおりであるが、あくまでも同期放送の環境の中で妨害を受けているかどうかを判定していただいたものである。(岩田構成員)

### (3) FM同期放送の技術的条件の基本的考え方について

事務局より資料FM同作1-4に基づき、FM同期放送の調査検討における基本的な考え方について説明を行った。主な質疑応答は以下のとおり。

- 同期放送を行う上で、D/U比を確保する必要がある。偏波面を異なるものとすることでD/U比をより確保できるが、無線設備規則において、送信偏波面は原則として水平とされているが、この二点は切り離して考えるべきなのか。(堀越構成員)
- 送信偏波面は原則として水平としているが、偏波面の使い分けについても一つの手段として認識した上で検討していければと考えている。(事務局)
- 実際に置局をした場合、受信品質が劣化する地域も生じると思うが、技術基準を作成するに当たり、どの程度のエリアをカバーする必要があると考えているのか。(齋藤構成員)
- 現行のFM放送においても場所率50%、時間率50%というのが評価の基準となっているため、同期放送を行う場合についても等電界地域において場所率50%、時間率50%が一つの基準と考えている。(事務局)

### (4) その他について

事務局より次回の作業班は9月上旬頃に開催を予定している旨、連絡を行った。

### (5) 閉会

以上